

みんゆう 随想

今回の3・11百名山追悼登山は、いつもの相棒にドタキャンされて、単独の北海道山旅となりました。

仙台を19時40分に出港し、先ずはひと風呂浴びて食堂に足を運び、バイクンクに甘んじて、10日間のスタミナづくりと、一抹の不安と寂しさの隠せない山旅に乾杯をすることにしました。

渡辺 裕之

福島市・渡辺エンジニアリング
代表取締役



東の空が少し明るくなりかけたころに目が覚め、スクリュウの白波と軽やかなエンジン音、穏やかな海原と水平線に見とれていると、やがて船窓は眩しい黄

金色に染まり、ご来光に山した。後ろから鈴の音色が状況にあったからでした。旅の無事を祈願しました。聞こえ、山頂直下でポリュ。いつも悪い癖が蘇る。学生時代に周遊券で電車がアップしたので、嫌り、明日予定の大雪山旭岳車、バス、徒歩、野宿で北な予感が漂いました。北海にこれから登るため、旭岳海道を一周したことがあ道に来て一番で登頂する夢温泉ロープウエー登山口へり、将来はのんびりキャンがあったからでした。老骨向かうことにしました。パーで旅をしたいとの思いに鞭を打って、歯を食いし間に合わないと下山が大が、47年後に叶い、初日のばって振り切り山頂に立つ変なことになるので、最終行程である登山口までのドことができました。

山に魅せられて②

認して11時40分に、今度は殿でスタートしました。

ライブが始まりました。視界ゼロ、横殴りの冷たたちや、山ガールが切れ目4時に先手で初登頂の十い風の中、岩陰で朝食を取なく下ってきました。年甲勝岳を目指しました。今日り、ノンストップで下山し妻もなく、ファッシュンギも顔を見せてくれない山頂たのが9時50分でした。ヤルには足元の岩ごろもおに向かつて、避難小屋から途中息を切らした3人組構いなく視線が勝手に向いの急登を、雪渓を右手に、パーティーが、挨拶に続いてしまい、暫し疲れを癒や雲に吸い込まれるように登って「頂上で晴れるといいなしてくれました。り切ると、なだらかな尾根」。間違いなく晴れま『大雪の鐘』を二つ鳴ら歩きとなり、暫くするとすよ」と申し上げると『大してご冥福を祈り、二座一頂上への再急登が始まりま爆笑』。天候はさらに悪化日登山に感謝しました。